



校章について

----- 平成元年 3 月 3 日制定 -----

本校は、幕末の砲術家高島秋帆ゆかりの「高島平」の一角に位置する。この周辺は、20 年前までは「徳丸たんぼ」と呼ばれた美しい水田地帯であった。校地からは、埋蔵文化財の遺跡が発掘され、昔をしのびと共に、今や、都内屈指のマンモス高層住宅地として、新しい文化の息吹が感じられる。校章は、徳丸ヶ原の稲穂と高島家の紋章を組み合わせ、地域に愛され、親しまれる学校でありたいという希望を託した。地域を代表する高島家の紋章を台座に、本校生徒（板）を中心に据え、双方から結束した稲で暖かく育む様を象徴した。稲の三つの輪は、本校生徒の生活目標である「自律」・「協力」・「根気」を意味する。さらに、結束した三つの環は、「父母」と「教職員」と「地域」が一体となって本校の教育活動を支え、社会の一員として、心身共に健康で、たくましく生きてゆける生徒の育成をめざす願いがこめられている。

（平成元年 3 月）